

記 事

例会記録

日本医史学会 3月例会 平成24年3月24日(土)  
順天堂大学医学部 11号館 16階北フロア

1. 曲直瀬玄朔の事跡と医書出版 天野陽介
2. 「東京府下死亡一週表」等の新資料にみる明治中期わが国の週(月)・年齢・地区別死亡  
逢見憲一

日本医史学会 4月例会

シンポジウム “富士川游先生と富士川英郎先生”  
平成24年4月28日(土)  
順天堂大学医学部 11号館 16階北フロア

1. 富士川游先生のこと 岡田靖雄(青柿舎)
2. 富士川英郎と日本医史学  
富士川義之(富士川英郎先生嫡男)

3. 富士川游 “醫箴” “醫五不可” の心を現代医療に役立てる 桑原正彦(広島県安佐医師会, 生命倫理・富士川游顕彰委員会委員長)
4. 京都大学附属図書館「富士川文庫」と安藤昌益研究 石渡博明(安藤昌益の会)

日本医史学会 5月例会 平成24年5月26日(土)  
順天堂大学医学部 11号館 16階北フロア

1. ヴェサリウス『ファブリカ』の筋肉人図における人体表現の形態学的分析 阿久津裕彦
2. 浅井国幹顕彰会の足跡 安井廣迪

例会抄録

## 東京・青山霊園ハルツホルン(Henry Hartshorne : 華爾都保崙 ; 乞治呵倫)の墓

樋口 輝雄

Henry Hartshorne (以下「ヘンリー・ハーツホルン」)は1823年3月にアメリカ・ペンシルベニア州フィラデルフィアで生れ、1897年(明治30)2月、東京で没した。1860~70年代に刊行した医書は、明治初年に桑田衡平や長谷川泰、小林義直、太田用成らが和訳したが、当時は著者名を「ハルツホルン」「ハルツホウルン」「華爾都保崙」「乞治呵倫」と表記して、「華氏」と略記した。1869年初版の著書“A Conspectus of the Medical Science: comprising manuals of anatomy, physiology, chemistry, materia medica, practice of medicine, surgery, and obstetrics, for the use of students”は、解剖、生理、化

学、薬剤、内科、外科、産科のいわゆる「医学七科」につき図版を多用して平易に記述した。わが国でも「解体説略」「解剖摘要」「産科摘要」などの書名で同書各篇が訳出され、1871年発行の第2版は太田用成らが『七科訳説』の書名により浜松で上下巻を出版した。Gray(虞列伊)の解剖書やLudlow(律度羅)のManual of Medical Examinationなど多くの英米系医学書が幕末から明治初期に訳出されて普及したが、阿知波五郎氏は近代ヨーロッパ医学の系譜を講究され、英米系、特にペンシルベニア大学系の医書の本邦医学界に与えた影響について詳述している(阿知波五郎:近代日本